



古人骨資料の精密分析を用いた共同研究を開始

九州大学アジア埋蔵文化財研究センターと
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムとの学術分野での連携について

概要

平成 27 年 1 月 22 日 (木) に九州大学アジア埋蔵文化財研究センター (センター長 田中良之) は、山口県下関市にある土井ヶ浜遺跡*・人類学ミュージアム (館長 浦岡仁) と、古人骨資料の精密分析を用いた共同研究を推進することを目的とした学術交流に関する覚書を締結しました。

■背景・内容

九州大学アジア埋蔵文化財研究センターは、アジアを視野に入れた文理融合の国際研究拠点の構築を目的とした、遺跡から出土する古人骨資料の学際融合研究において世界トップレベルの研究機関です。一方、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムは、古人骨を調査・研究し、教育普及活動を行っている全国でも数少ない博物館であり、日本でも有数の規模の古人骨コレクションを持っています。

この度、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターが持つ高度な精密分析機器を用いて、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムが所蔵する古人骨資料を分析し、人の移動や婚姻などの社会動態の歴史の解明を目的とした共同研究を推進していくことになりました。

■効果

今回の共同研究により、人的交流や共同研究を通じた組織的な連携協力体制が構築されることで、それぞれの研究基盤やそれに基づく研究ネットワークや教育普及活動が充実することが期待されます。また、共同研究の主要なフィールドである響灘沿岸地域は古来よりヒトやモノの交流の要所となった地域であり、この地域の歴史の解明や日本あるいは東アジアを視野に入れた人類史の解明に大きく貢献することも期待されます。

■今後の展開

土井ヶ浜遺跡をはじめとする響灘沿岸の弥生時代遺跡から出土した古人骨資料を共同で調査・分析し、この地域における弥生時代の人の移動や婚姻などの社会動態を研究します。

【用語解説】

土井ヶ浜遺跡

土井ヶ浜遺跡は山口県下関市に所在する弥生時代の埋葬跡です。遺跡は国指定の史跡で、1953 年に九州大学医学部の金関丈夫教授により発掘調査が開始され、これまで約 300 体以上の弥生時代人骨が出土しています。土井ヶ浜遺跡の古人骨資料は、日本人の起源に関する研究や弥生時代の社会組織に関する研究など、人類学や考古学の研究の進展に大きく貢献してきました。

【お問い合わせ】

アジア埋蔵文化財研究センター 准教授 田尻義了

TEL・FAX：092-802-5643

Mail：tajiri@scs.kyushu-u.ac.jp